



『自分の思いを自分で伝える』

2月19日の全校集会では「自分の思いを自分で伝える」という話をしました。

まず私(校長)の経験からです。昔の話で恐縮ですけど、中3の6月に関東地方から転校して新しい学校に入りました。すぐに定期テストがあり、英語の試験で長文を読んでその後質問がある、いわゆる長文問題があり、主人公が〇〇をようしなかった理由を書きなさい、という問題が出ました。

大阪でずっと育ってきた人には、当然『ようしなかった』と言うと『できなかった』という意味だとすぐ分かると思うけど、これは大阪弁です。

転校したばかりの自分には意味が全然わからなかったのです。ようしなかった？必要としなかったという意味かな？それとも使用しなかったという意味かな？用紙なかった、つまり紙がなかったという意味かな？(いくら何でもこれは違うな)とか色々考えました。

私(校長)の経験から

母に相談

「それはお前の問題、だから自分で言うのが当たり前」



たぶん必要とはしなかったという意味かな。そう考えて、とりあえず答案を書きました。テストが返ってきました。当然 × です。

テスト返却後の解説を聞いていると、どうも『できなかった』という意味であることが分かりました。

これどうしよう？3年生のテストと言えは進路選択に関わる大事なテストです。

何だか悶々としながら家に帰り、親に相談しました。「この問題の『ようしなかった』ってこれ大阪弁だね。意味が分からなかった。これ文句言っても良いかな。」親は言いました。

「それは確かに大阪弁だね。方言でテストの質問をするって ちょっとおかしい事だね。」

「先生に言っても良いかな？お母さんから言ってくれる？」

「何で？それはお前の問題でしょ。自分で言うのが当たり前でしょ。」

その後どうしたのか、だいぶ昔のことなので記憶が薄れていますが、もう遅いと思って結局言いには行かなかったと思います。

でも今でもはっきり覚えているのは、「それはお前の問題でしょ、だから自分で言うのが当たり前でしょ。」と言う言葉です。

そう言われたらその通りです。今のみんなはもしかしたら冷たい親やなと思うかもしれませんが、でも私はその時親がそう言ってくれたことにはとても感謝しているのです。

どうしてかって？

私(校長)の経験から

中3の6月に転入。



私(校長)の経験から

テストの時

「主人公が〇〇をようしなかった理由を書きなさい」



私(校長)の経験から

テスト返し

「ようしなかった」は「できなかった」という意味だったんだ・・・



その日からあとは、自分のことはまずは自分で何とかするんだ、と言うことをどんな場面でもはっきりと自覚できるようになったからです。

こう言う気持ちを自立心と言います。この体験がなければ、ボクの自立は 2,3 年遅れていたかもしれません。

自分の気持ちを自分で伝えなかったばかりに大きな問題となることもあります。

今度は私の教師としての体験からです。初めは女の子どうしの小さな行き違いからでした。二人はとても仲良かったのです。

(具体のエピソードは割愛します)
最終的には一人の子が転校にまでなってしまいました。誰にとっても幸せな結末とはなりませんでした。

保護者の方は、自分の子どもが少しでも傷つく事が許せない、全力で守ろうとしてくださいます。でも保護者の方の受け止め方によっては対立が大きくなってしまったり、もしかしたら私のテストの時のように、自立を遅らせる結果となるかも知れません。

人は、年齢を重ねるにつれて、いろいろな関わりの中で傷つくこともあれば、自分の思い通りにならない事は多くなってくるものです。そんな経験を経て、正解のない人生の課題にも自分なりの答えを出しながら進んでいく力がついてきます。

何か起こった時。その時に、まずは自分で考えてみる。動いてみる。

それが難しかったり、動いてもうまくいかなかった時には誰かに相談してみる。それは恥ずべきことでも何でもありません。誰かに相談する、と言う行動も立派な自立のひとつ、生きる力のひとつです。

それは、友だち、先生、保護者の方であってももちろん良いのです。

私(校長)の経験から

自立心



ある人のケース

仲の良いふたり



ある人のケース

全力で
子どもを守ろう



自立とは

だれかに相談できる
ことも、
自立のひとつ。



まとめ
「自分の人生の主人公は
自分なんだ。」

「今回のことは、自立や生きる
力の経験値となった。」

「最終的には当事者である
自分が決める」



しかし誰かに相談したとしても、
「自分の人生の主人公は自分なんだ」
と言う気持ちや、この経験が
「自分の自立やこれから生きていく力がつくための経験値
となっているんだ」

という考え方、そして

「最終的な決着は当事者である自分の気持ちが決めることだ」

ということを理解しておく事は、とても大切なことではないかと思えます。

人は乗り越えられない試練は与えられないと言います。自分を強くするために今の試練は自分のところにあえてやってきているのかもしれない。そんな風に受け止めることも、自分を応援する力になると思えます。

失敗したっていいじゃないか

新聞を読んでいたら、次のような相談が載っていました。(出典：読売新聞 2024.1.21 朝刊)

30代無職女性。自分の非常識な行動に悩んでいます。昔から優等生と言われ、両親の考え方に沿って生きてきました。しかし自分の能力で太刀打ちできない選択に直面して不安と恐怖にさいなまれるようになり、何ごも首を縦に振っては、いざ行動に移す際にドタキャンするなど、逃げ癖が頻繁に出ます。そのせいで、友達、両親からも冷たい目で見られます。過去の過ちを繰り返すのが不安で、仕事からも逃げ、無職のまま30代になりました。病院では診断がつかないと言われました。やはり私が責任を持たない、非常識な人間だからでしょうか。貯金も収入もなく実家にもいますが、両親から、これ以上、迷惑な行動をしないでほしいと言われました。これから先、逃げずに立ち向かう精神をどうしたら養えますか。自立して生きていくにはどうしたらよいでしょうか。(東京・C子)

この相談に対して、小川仁志さんという哲学者の方が、次のように書いておられます。

人生案内 小川仁志 (監修)

何ごとに対しても、自分にはできないんじゃないかと思ってしまう。どうすれば逃げずに立ち向かえるか、そして自立して生きていけるかというお悩みですね。

たしかに、できないと思うと逃げ出してしまうものですね。なぜなら失敗するのが怖いからです。でも、失敗はそんなに悪いことなのではないでしょうか。この点、日本の哲学者三木清は、「人生論ノート」の中で失敗を個性として捉えています。つまり、人生というのは冒険であって、冒険である限り成功もあれば失敗もあります。どちらもあるから個性的な生き方ができるといわけです。成功ばかりの冒険物語なんてちっとも面白くないですね。波乱万丈じゃないと。

そう考えると、むしろ私たちがもっと失敗すべきだというふうにさえ思えてきます。その方が人生が豊かになるのですから。

私も20代後半、失敗を恐れていた時は引きこもっていました。でも、失敗を受

け入れた瞬間からまた活躍できるようなったのです。ちよつど相談者と同じ30歳くらいのことでした。自立とは失敗を受け入れることなのかもしれませんが、まずは、これまでの人生の失敗を受け入れることから始めてみてください。

上の相談でもそうですが、子どもたちはまず自分からやってみて、失敗する体験を経ることが真の自己肯定感を育むことにつながる、ということが言われています。

昔から『若いうちの苦労は買ってでもしろ』と言いますね。学生時代の失敗は、十分やり直しができるし、自分の人生をむしろ豊かにしてくれます。3年生の皆さん、入試の結果が万が一思った通りにならなくても、そこから本当の人生が始まるのです！

1年生 2年生 学年末テストお疲れさまでした

1, 2年生のみなさん、テストは一体何のためにあると思いますか。

テストの最も大きな目的は、日ごろの学習の中で理解が足りていなかった内容を自分自身が把握することにあります。一番よくないのは、テストの点数だけを見て「やったー」とか「全然あかん」とか「平均点より上や、下や」「〇〇さんに勝った、負けた」だけで終わってしまう事です。それではテストの目的は全く達成できていません。せっかく取り組んだのだから、テストの結果を充分に生かしてほしいと思います。

テストの目的は、各教科の内容で理解できていなかったところをしっかりとやり直すためです。テスト問題にはその単元の中の学習で重要なポイントが必ず含まれています。今回マルがついた問題でも、やり直すことで知識が定着し理解が深まり、より早く解けるようになります。できなかった問題については、そこを理解しないと次の単元の理解が難しくなるということもありますので、しっかりとやり直しをして理解しておく必要があります。とくに日頃の勉強をさぼっていて、テスト前の数日間で必死になって勉強してテストに臨んだ人は、テストの時には残っていた記憶はどんどん失われてしま

ます。テストでは○でも、いま同じ問題をやってもできないかもしれませんよ。

それから、皆さんには、こんなことはありませんか？

- ・理解したつもりになっていたけど、勉強不足で問題が解けなかった。
- ・わかっていただけ、うっかりミスが多いな。
- ・この単元は何だか苦手だな。前の単元は好きだったけど…。
- ・選択問題はできても、記述式の問題はうまく書けないな。
- ・答えを書いてマルだったけど、答えを出した理由が自分でもよくわからない。
- ・自分はどうも理科や数学が好きで、社会や国語は少し苦手かも？
- ・今までの勉強方法は、自分に合っていないのかな？

テストを通して自分自身の強い部分や弱い部分を知るのです。そして自分に一番合った勉強方法を見つけるのです。(例えばノートに書いて勉強するのか、何回も読んで勉強するのか、動画を見ると理解しやすいのか、図にまとめ関連付けて理解すると効果的か、など。) 難しい言葉ではこれを「メタ認知」と言います。得意分野をどう伸ばして、苦手分野をどう克服するのか、テストのたびに自分を振り返ってみてください。

情報革命と言われる今の時代は、新しいことや新しい考え方を一生学び続けることが必要な時代です。自分を知り効果的な勉強法がわかれば、それは一生の宝物になります。そのようなことをしっかり考えられれば、今回点数が多少悪くたっていいのです！

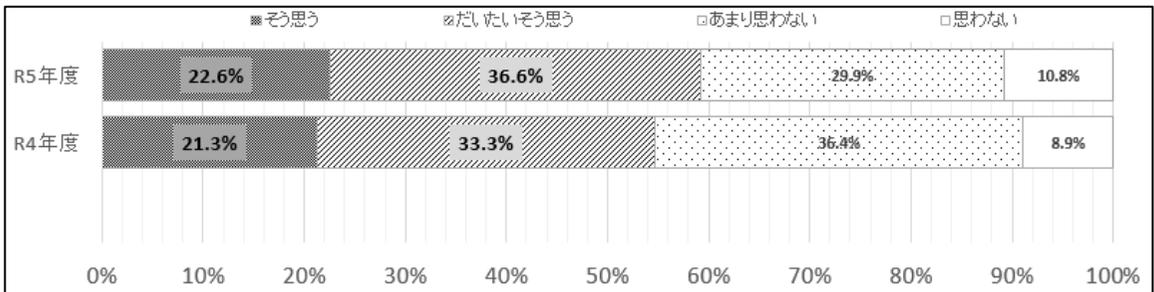
保護者のみなさまへ

年末の学校教育自己診断へのご協力ありがとうございました。全体の結果は学校のホームページに掲載していますのでぜひご覧ください。

<https://www.toyonaka-osa.ed.jp/cms/jh15/index.cfm/1,0,14,html>



その中に「中学生の子どもを育てるうえで迷いや不安がある」という項目がありました。



半数を超える 59.2%の方が不安がある、というご回答でした。

子育ての不安について、心理カウンセラーで作家の野口嘉則先生のお話が参考になるかと思います。約39分間の動画です。右下の二次元コードからぜひご覧ください。

『子育てで親も子ども幸せになるために、これだけは知っておきたい3つのこと』

- 1) 失敗する自分、傷つく自分、がっかりする自分を受け入れてもらったときに子どもの自己肯定感が高まる
- 2) 子どもの力を信じるのが子どもへの最大のサポートになる
- 3) 親が楽であることが子どもにとって最高のプレゼントになる



<https://www.youtube.com/watch?v=bgLRFXewCyg>